

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19730491

研究課題名(和文) 遊びの援助における保育者の専門性の確立：小学校教育との学びの連続性を図るために

研究課題名(英文) A study on the professionalism of preschool teachers to enrich children's play: Towards elementary school transition program

研究代表者

北野 幸子 (KITANO SACHIKO)

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号：90309667

研究代表者の専門分野：乳幼児教育学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：保育者の専門性、就学前教育、保幼小連携

1. 研究計画の概要

保幼小の連携の必要性和重要性が指摘され、園と小学校の相互訪問、教師間の交流などは進められているが、しかし、系統的なカリキュラムの検討や学びの連続性を図る試みは不十分である。

本研究では、小学校教育との連続性を考慮しながら、保育実践での、遊びの中に埋め込まれている学びの内容と教育の方法を解明し、遊びの場面を分析することによって、遊びの援助における保育者の専門性を明らかにすることを目的としている。

具体的には、保育実践における遊びの現状と遊びの援助のあり方を明らかにし、それと小学校の教育との比較検討を行う。現状把握の方法としては、園については、好きな遊び場面のデータを収集する。小学校に関しては、小学校学習指導要領を検討し、小学校1年生の教育内容についてのデータを収集する。遊びの援助のあり方については、保育者対象に質問紙調査やヒアリング、園内研修を実施し、検討する。

2. 研究の進捗状況

遊び場面については、平成19年度:39日、2008年度:24日データを収集し、エピソード記録と幼児の会話のテープおこしを行い、小学校の学習指導要領の教育内容と比較した。体育、図画工作、生活科の内容が多く、中には小学校5年生の教科内容の学びの経験が含まれていることが明らかになった。

好きな遊び場面では、一斉保育に比べて子どもの嗜好性や個性差による偏りがみられることが予測されたが、抽出児に焦点をあて

て検討した結果、教科につながる内容が遊びの中にバラエティー豊かに含まれていることがわかった。

2009年度は、複数の協力園で、園内研修を行い、ドキュメンテーションの検討、遊びの映像・写真を元に学びの内容、援助の視点について検討した。保育要録の記録や、遊び場面の分析方法を検討も行った。結果、応答的に遊びを捉えて援助するだけではなく、保育者の知識や教育意図を基に遊びの意義付けがなされ、環境構成や問いの工夫がなされる必要が明らかになった。

2008年度2学期には、M市のすべての保育所・幼稚園・小学校に依頼し年長クラスと1年生クラスの通信を収集し、平成21年度にはそれぞれの内容の比較検討を行った。結果、園・学外実習先、教育内容に重複部分が多いことが明らかになった。

保育者の援助の根拠やあり方については、2008、2009年度に340人の保育者へのアンケート調査と、園長主任対象のヒアリングを行った。子どもの現状や教育課題といったものを把握しそれと科学的根拠に基づいて遊びの援助や各判断を行う必要性が明らかになった。

遊びの援助の方法や、保幼小連携に関わる養成教育の実態についてシラバスを分析し、専門家会議で検討した。連携を扱う授業が少ない実態がある一方で、幼児教育内容に関わる授業を小学校免許の必修科目としているところや、実践の事前事後の交流研究会を学年を超えて実施している事例や、記録等の工夫が明らかになった。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由)

2007、2008年度は、教育委員会、幼稚園・保育所・小学校の協力を経て、当初の予定よりも多数の遊び場面のデータが収集できた。また、2008年度には、M市教育委員会の協力を得て、すべての園と小学校に依頼し、2学期の通信の収集がスムーズになされた。

現場の保育者・教師対象のヒアリング調査も、教育委員会主催の園長・校長との連携会議や、研究会での保幼小連携に関する自主シンポジウムや、各園での園内研修等により、順調に進んだ。

当初の研究計画に加えて、本研究主催の専門家会議で、遊びの援助のあり方の検討や資料収集を実施することができた。

保育各領域の専門家の研究協力を得て、当初、平成22年度に作成を計画としていたハンドブックの内容を含む著書を出版することができた。

4. 今後の研究の推進方策

2010年度は、これまでの個別調査結果の再検討を行い、総合的に分析(類似エピソード、関連事項の抽出)する。

また、保育者の遊びの援助における専門性とかかわる要素の抽出、特に、小学校教育との連続性、異質性、独自性について分析する。

さらには、当初の研究計画をさらに進めて、本研究のこれまでの成果から明らかになった保育者の遊びの援助の質の向上を図るための課題をさらに吟味し、これを改善することをめざし、遊びの援助に関わる保育者の専門性の確立とその向上を図るための資料を作成し、その内容を公開する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

①北野幸子、中野道子、教育委員会と大学の協働による保幼小連携推進の試み、教育実践研究、17、73-79頁、2009、査読無

②北野幸子、ケア・教育・子育て支援を担う保育士養成の現状と課題、社会福祉学、50-1、123-133頁、2009、査読有

[学会発表] (計3件)

①KITANO, Sachiko, How Early Childhood Care and Education Teachers Make Decisions to Design Practices?; Improving Evidence Based Practice in Early Childhood Care and Education, 環

太平洋乳幼児教育学会 (PECERA) 第10回大会、2009、審査有

② KITANO, Sachiko, What are children learning through free play activities? ; Gathering data to design preschool to elementary school transition program, 環太平洋乳幼児教育学会 (PECERA) 第9回大会、2008、審査有

[図書] (計2件)

①北野幸子、角尾和子、荒木紫乃編著、遊び・生活・学びを培う教育保育の方法と技術—実践力の向上をめざして— 2-8頁、185-194頁、2009